

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571100126		
法人名	社会福祉法人 福祥会		
事業所名	グループホームきららの里		
所在地	山口県長門市深川湯本628-1		
自己評価作成日	平成23年9月26日	評価結果市町受理日	平成24年4月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・周囲の自然美あふれる環境を活かし、利用者各々に合わせて作成されたケアプランにそって生活支援に努めています。又、家族参加の行事、運営推進会議等を通じて利用者家族とのコミュニケーションをはかり、地域密着型事業所としてスムーズな運営を目指しています。
・事業所で開催する「きらら喫茶」で利用者の活躍の場を作り、家族や併設施設との交流を図っています。今年度は、地域の方を招待し、交流の場を広げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で利用者がその人らしく暮らし続けられるよう地域の公民館の文化祭に参加されたり、地域の喫茶店での歌の会への参加、郵便局での利用者の作品展示や事業所主催の「きらら喫茶」などで地域の人達と交流されるなど、地域密着型サービス事業所として、日常的に地域の一員として交流に努めておられます。家族の協力を得て自宅近隣のドライブや墓参り、法事、昔なじみの人達との集いへの参加を支援されたり、家族や旧友との電話や手紙のやりとりなど馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援をされています。ボランティアの読み聞かせ、音楽療法などの楽しみごとの支援や職員宅での焼肉パーティ、蛸狩り、道の駅の足湯、美術館などへの日常的な外出支援にも努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新任研修及び「勉強会」で取り入れ、理解共有と実践への取り入れに努めている。	事業所独自の理念を作成し、玄関に掲示している。勉強会(月1回)のテーマとして、職員全員で理解して共有し、ケアの方向性を一致して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内のお店での買い物や外食、喫茶「ショアーズ」歌の会への参加などで交流に努めている。	法人が自治会に加入し、法人の納涼祭には地域の人の参加があり、3ヶ月に1回事業所で開催するきらら喫茶では地域の人や家族の交流がある。公民館の文化祭に利用者が参加している。利用者が郵便局に事業所の「便り」を投函しに行くときに、郵便局に展示する貼り絵などの作品を届けている。地域の喫茶店での歌の会に全利用者が参加して、ボランティアの音楽療法士や地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設での介護教室は実施され、地域の参加もあるが、グループホーム独自としては実施出来ていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	これまでの理解が不十分であったが、今回、全員で評価委に参加したことで取り組みに努めている。	評価の意義を説明し、全職員が自己評価を記入し、管理者が不十分なところを聞き取りまとめている。評価をすることで職員の理解も進み、外部評価の結果を職員に回覧して振り返りとしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内について、様々な角度から理解して頂き、意見を取り入れて向上に努めている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の現状報告、行事報告、外部評価の結果報告などをして意見交換している。	・運営推進会議を活かした取り組みの工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やファックスでの状況報告を行っているが、サービスの取り組みを伝えるには至っていない。	主に法人として市と連携すると共に、介護保険課や地域包括支援センターと連絡や情報交換を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「勉強会」のテーマに掲げ、職員間での理解に努め、ミーティングやケース会議で折を見て確認しケアに取り入れている。	指針、マニュアルを作成し、マニュアルを参考にして勉強会を実施、職員は理解している。玄関は施錠せず、外出を察知した時には一緒に出かけたり、見守りをするなど、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「勉強会」のテーマに掲げ、職員間の理解を深め、一人ひとりが防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「勉強会」やミーティングで職員間の理解を深めている。現在、活用支援が必要とされるケースがない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明を行うよう努め、契約・解約に当たっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の体制は整えているが、活用されていない。日常的な要望は直接、聞き入れる雰囲気作りに努め、取り入れている。	相談、苦情受付担当者、外部機関を明示すると共に、苦情処理マニュアルを作成し、入居時に説明している。家族交流会、運営推進会議、面会時等で意見や要望を聞くように努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議と年2回の代表者との個人面接を行い、把握と整備に努めている。	月1回施設長、事務長、栄養士、管理者、出勤職員が参加するスタッフ会議を開催し、意見や提案を出し合っている。事業所での夕食作りの回数についてなど具体的に検討している。年2回代表者が個人面接を行い、意見や要望を聞いている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の代表者との面接で環境整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のレベルを代表者が把握し、研修参加を勧めたり、個人のトレーニングを奨励している。	外部研修は段階的に勤務の一環として受講の機会を提供し、復命をしている。法人内研修は年4～5回実施している。内部研修は研修計画を作成して、月1回勉強会を開催したり、毎夕のミーティングで職員の気付きを話し合うなど、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議の参加を推進している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からのアセスメントを踏まえたうえで、本人とのかかわりを積極的に持ち、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時・入居前から出来る限り、声に耳を傾け、信頼関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話に十分耳を傾け、支援に努めているが、他のサービス利用を含めた対応には至っていない。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員から「ありがとう」を伝えられる場面作りに努め、関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各家族によって、関係の違いがあるが、話し合いを行い、共に本人を支える関係作りに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の買い物や外出などで支援に努めているが、関係継続には不十分である。	家族や旧友との電話や手紙のやりとり、家族の協力を得ての外出、外泊、墓参り、法事、昔なじみの人たちとの集まりへの参加の支援やディサービスを利用する親戚や友人との交流など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係作りのため職員が間に入ったり、トラブルを避ける工夫をしたり、席などの環境づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の支援は出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に理解に努め、ケース会議を通じて出来る限り本人本位の検討に努めている。	日々の関わりの中で希望や意向の把握に努め、介護記録に記載して本人本位の検討に努めている。	・把握した思いや意向を職員間で共有するための工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、また入居中も引き続き、本人家族からの話に耳を傾け、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング・ケース会議・ケース記録から把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に本人と話、面会時などで家族との話し合いを持ち、ケース会議において、介護計画を作成している。	本人や家族の希望を聞いて、介護計画は長期目標を1年、短期目標を6ヶ月とし、月1回カンファレンスを行い、6ヶ月に1回モニタリング、評価をし、担当職員など関係者の意見を反映した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など出来る限り詳細に記録し、共有に努めているが、実践・介護計画への反映には不十分である。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズの対応には努めているが、サービスの多機能化には不十分である。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力を発揮するよう、努めているが、地域資源の活用はまだ不十分である。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を優先して受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回協力医療機関の往診を受けている。本人や家族の希望するかかりつけ医への受診は家族が同行しているが、都合が悪い時には職員で対応している。受診内容等は医療機関と家族、職員で情報交換し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と1週間に1回、連絡相談を行い、適切対応できるよう、努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換や、カンファレンスへの参加、家族との情報交換に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、早い段階から、本人・家族の意向を継続的に話し合い、今後の対応を検討するよう、努めている。	重度化した場合の対応については、入居時に説明し、状況の変化に応じて家族等と繰り返し話し合いを行い、法人全体で対応できる支援方法を踏まえて、医療機関等の関係者と共に、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	救急講習、勉強会、ヒヤリハット検討会を通じて、取り組んでるが実践力は不十分である。	事故報告マニュアルを作成し、ヒヤリハットに記録すると共に、勉強会で事故防止やヒヤリハットを取り上げ、事故防止に取り組んでいる。AED講習、救急対応の講習を行っている。	・実践力を身につけるための夜間も想定した初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を実施し、努めている。地域協力としては、ホテル業者の災害避難時のバス送迎の協力体制を得ている。	法人で夜間想定も含め年4回防災訓練を行い、内1回は事業所での火災を想定しての訓練を行っている。事業所独自に年1回避難訓練を実施している。災害時の地域の避難所までの送迎について近隣のホテルと協力の申し合わせが出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれに言葉かけに留意し、対応している。	利用者のその人らしさを大切にして、さりげない言葉かけや対応に努めている。マニュアルがあり、夜勤時に確認するなどして理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導になる場面もあるが、出来るところは自己決定できるよう働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望の把握に努めるようにしているが、全体の流れが主流になっている面が見られる。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	十分とは言えないが、お化粧・毛染め・ヘアカットなど、本人の好むおしゃれの支援に努めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに沿う事が難しいが、それぞれの力を活かし、食事の買い物・準備・片付けを行っている。	朝食、昼食は事業所で食事づくりをし、夕食は法人の配食を利用している。利用者は盛り付け、片付け、下ごしらえ、揚げ物などを職員と一緒にしている。家族等の差し入れの野菜、果物、味噌を利用したり、献立に利用者の好みを取り入れたり、食べやすいように調理を工夫するなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェック表を用い、十分取れるよう努めている。習慣に応じた物の提供にもできる限り、努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼・夕食後の口腔ケアをそれぞれの力に応じた支援で、行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力に合わせて、紙パンツ・パットの使用、トイレ誘導に努めている。自立に向け、本人の状況に合わせた声掛けの工夫もしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーにも気をつけてトイレ誘導をして、排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動の働きかけを心がけている。必要時に応じて、服薬支援を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯(14:00～17:00)の間で、一人ひとりの希望の順番や意見を聞き入れ、声掛け・環境づくりを工夫し、出来るだけ快く、入浴できるよう支援に努めている。	14時から17時の間にゆっくりと一人ひとりの希望にそって楽しめるように入浴の支援をしている。仲良しの利用者が二人で入浴することもある。入浴を嫌がる場合は、声かけの工夫をしている。シャワー浴、清拭、足浴等の対応もしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の心身状況を把握し、安眠できる支援に努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は、その都度確認して支援に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意・好みの活動の支援に努めており、生活歴を活かした支援の取り入れが今後の課題である。	歌声喫茶に出かけて唄ったり、新聞、読書(移動図書の受け入れ)、読み聞かせ、音楽療法、貼り絵、ペーパークラフト、習字、活け花、雑巾縫い、花の手入れ、おやつ作り等、活躍できる場面を作り、楽しみ事や気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿えるよう家族の協力も得て、支援に努めているが、一人一人その日の希望に沿う事は出来ていない。	家族や地域の人の協力を得て、利用者一人ひとりの希望にそった外出が出来るようにすることを目標にして、美術館、清風記念館、道の駅の足湯、温泉地の盆踊り、蛍狩り、職員宅での焼肉パーティ、花見(桜、紫陽花等)、買い物、散歩など希望する所に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に合わせた支援を目標にしているが、現状は、本人からの希望がなく、職員管理で行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状ではやりとりの支援に至っていない。本人の力と状況により、支援に努める。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎の季節に合わせた壁面作りや花を飾るなどに努め、適度な環境づくりを工夫している。	居間、食堂は開放的で天窓があり、明るい日差しが入って、青空や流れる雲が眺められる。壁面にはペーパークラフトや利用者の写真が飾られ、親しみ深い空間となっている。利用者がくつろげるよう足もみマッサージ機や畳のスペースもあり、玄関等には法人のクラブ活動の作品である活け花が飾られ、季節を感じたり、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースに限りがあり、思い思いに過ごす事は難しいが、テーブルや席の配置など工夫に努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の状況に合わせて、居室内を整えている。	本人や家族と相談し、位牌、人形などの好みのものやダンス、畳、衣装ケースが持ち込まれ、家族の写真や習字などの作品が飾られ、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保のため配置や物品保管に留意し、わかりやすい掲示やなじみやすいよう工夫に努めている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームきららの里

作成日： 平成 24年 4月 3日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議の出席者が少なく、意見交換の内容が、狭くなっている為、会議参加者の拡大と内容の充実を図りたい。	地域密着型サービスとして運営に活かすことのできる運営推進会議を実施する。	近隣からの参加として、外出で交流のある「ショアーズ」のボランティアスタッフの方、買い物先の「丸和店」の方、湯本温泉の方の参加を呼びかけ、事業所への意見を頂く機会を作り、運営に取り入れる。	1年間
2	24	全体での活動が多く、個別ケアの時間が少ないため、本人本位の生活を充実したい。	個々の望む時間の過ごし方を重視し、全体での活動だけでなく、個人の活動を支援する。	職員一人ひとりが毎日のケアの中で、利用者様一人ひとりの個別ケアを実施し、実施内容はケース記録に記載し、毎月1回のスタッフ会議時には、どのような個別ケアが行われたか、確認と評価を行う。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。